

人々が学び、交わることで “平和のとりで”を築いていく



公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟
会長
大橋洋治氏

UNESCO憲章の前文に込められた 平和への願い

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない

1940年中国・旧満州生まれ。全日本空輸株式会社(ANA)社長、ANAホールディングス会長などを経て、2015年から同相談役。旭日大綬章受章。

現在はカンボジアのアフガニスタンに現地事務所を設置し、ネパール、ミャンマーを含む

び、読み書きができる基本的な権利が守られた状態があつてこそ、平和への道が開けます」海外に向けた代表的な活動に約30年にわたり独自で継続している「世界寺子屋運動」が挙げられる。貧困や紛争などで教育を受ける機会がなく、今も読み書きができない人のために、子どもも大人も学べる場を提供する。このように教育が十分に整っていない途上国では、人類が残すべき世界遺産を保存するための技術や人材が不足している場合もある。そこで現地の人がこれからも遺跡を保存・修復できるように、技術移転や人材育成を進めている。

4ヶ国での自立した教育普及や遺跡保全に向けて働きかけている。持続可能な活動に向けた取り組みは、国連の掲げるSDGs(持続可能な開発目標)とも重なる。このほか、国内で自然災害に遭った子どもへの教育支援にも力を入れる。地震で被災した子どもたちへの返済不要の奨学金や、被災した学校への緊急物資支援プログラムなど、次世代を担う子どもたちの「学びたい」という思いに寄り添うことも重要な活動の一つだ。

近年は日本の自然や文化を守り、後世に残すための支援も始まった。たとえ世界遺産や文化財に指定されていなくても、長い時間をかけて育んできた自然環境や町並みなどは地域の宝物。日本ユネスコ

ユ

ネスコ(国連教育科学文化機関)憲章の前文には、次の一文が記されている。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」。

価値の衝突からさまざまな紛争が起きていた現代こそ、この理念が求められている。心の中の平和のとりでを、市民の手で築いていこうと立ち上がったのが日本だ。戦後間もない1947年7月、世界で初めて、民間のユネスコ協会が仙台で発足した。翌年には各協会が連携した日本ユネスコ協会連盟が設立され、草の根の教育・平和活動は世界へ広がっていく。日本国内にも海外にも活動の現場を持ち、一般の人たちから寄せられた寄付で直接支援を行っているのが団体の特徴だ。

大橋洋治会長(77)は、こう力を込める。「今、当たり前のように享受している平和が実は非常に得がたく尊いものであることを、私たちが世代は戦争体験から実感しています。戦時中に旧満州で暮らしていた私と母は、1945年8月の旧ソ連連軍で住まいを追われ、逃亡生活を強いられました。戦争を二度と起こさないためには、私たちが自ら平和のために行動しなければなりません。だからこそ、草の根のユネスコ活動に価値があると思います」

教育を受けることが 平和の礎となる

さまざまなユネスコ活動のなかでも大きな位置を占めるのが教育だ。「ユネスコ憲章にうたわれた『平和のとりで』とは、人と人がつながり、互いの価値観や文化への理解を積み重ねることで築かれます。その意味で、教育は平和の基礎をなすもの。誰もが学

日本ユネスコ協会連盟の活動

1 カンボジアの寺子屋。これまで43カ国1地域で約130万人が学んだ。2 カンボジアの世界遺産の修復作業。カンボジア人へ技術移転を目指す。3 未来遺産に登録された長野県上水内郡における自然保護活動。4 震災で大きな被害を受けた子どもを助けている。

戦争ではなく 交流が価値をもたらす

協会連盟では、かけがえのない文化や自然を保護継承する市民活動を「プロジェクト未来遺産」として支援している。大橋会長はこう語る。「私は以前から『空のシルクロード』の実現を願ってきました。人が出会い、文化が交わり、国の垣根が低くなる。戦争ではなく、交流が新たな価値をもたらすと信じて、教育や文化の活動を、皆さまとともに進めていきます」

※パンフレット送付をご希望の方は、本特集最終ページの専用はがきでお申し込みください。

お問い合わせ

公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟
遺贈担当

☎03-5424-1121

izou@unesco.or.jp

ユネスコ協会 検索



公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟